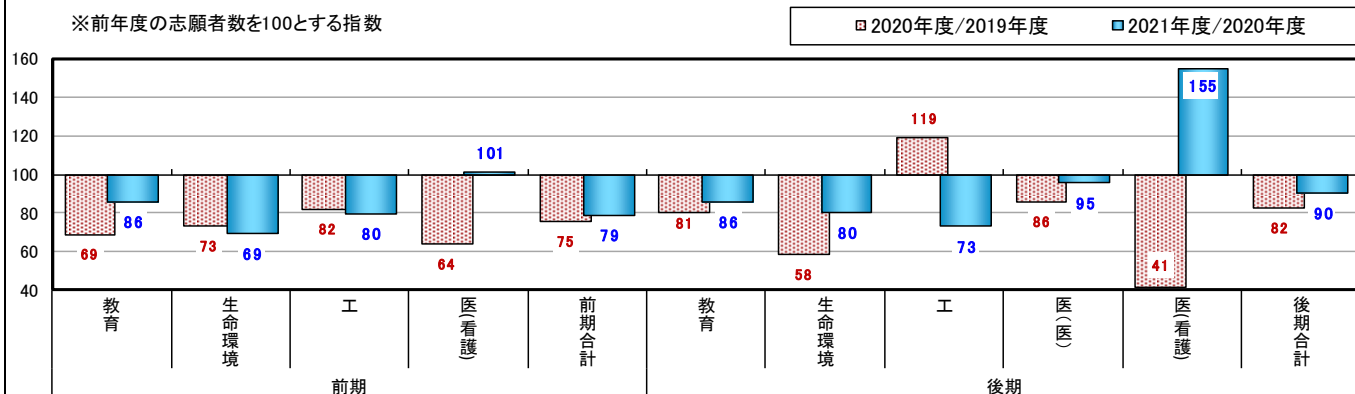


# 2021 年度入試状況分析【国公立大】

山梨大：前期は2年連続大幅減少、後期は減少

前期：-241人 後期：-192人



## 入試変更点

募集人員：教育(学校/幼少発達)…<前>15人→12人、<後>5人→4人  
 (学校/障害児)…<前>12人→10人、<後>5人→4人  
 (学校/言語)…<前>10人→7人、<後>3人→2人  
 (学校/生活社会)…<前>15人→11人、<後>5人→3人  
 (学校/科学)…<前>18人→14人、<後>6人→4人  
 (学校/芸術身体)…<前>8人→6人  
 生命環境(生命工)…<前>30人→27人  
 (地域食物科学)…<前>32人→30人  
 (環境科学)…<前>25人→22人  
 (地球社会システム)…<前>43人→40人  
 工(土木環境工)、(応用化学)…<後>7人→5人  
 (機械工)…<前>37人→33人、<後>8人→5人  
 (電気電子工)…<前>35人→33人、<後>7人→5人  
 (コンピュータ理工)…<前>35人→30人、<後>8人→5人  
 (メカトロニクス工)…<前>35人→33人  
 (先端材料理工)…<前>25人→19人、<後>6人→5人  
 共通テスト：教育(学校/幼少発達)、(学校/障害児)、(学校/芸術身体)  
 …<後>国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)→{国 or 歴公 or 数2 or 外 or (理 or 理基2)}→3  
 (学校/言語)…<後>国+歴公+数2+外+(理 or 理基2)→国+歴公+外  
 (学校/生活社会)…<前>国+数2+外+{歴公+(理 or 理基2)}→3  
 ※数：数I or 数I・A+数II or 数II・B  
 →国+数2+外+{歴公+(理 or 理基2)}→3  
 (学校/生活社会)…<後>国+数2+外+{歴公+(理 or 理基2)}→3  
 →{国 or 歴公 or 数2 or 外 or (理 or 理基2)}→3  
 生命環境(生命工、地域食物科学)…<前>国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生 or 地学  
 →国+歴公+数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生  
 医(医)…<後>国<200>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<300>=総点<800>  
 →国<200>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<600>=総点<1,100>  
 個別試験：教育(学校/幼少発達)…<前>{(国 or 数 or 外)→2}→外+面  
 (学校/言語)…<前>国+外→国+外+面  
 (学校/生活社会)…<前>{(国 or 数 or 理 or 外)→2}→外+面  
 (学校/科学)…<前>数+理→数+理+面  
 (学校/芸術身体)…<前>実→実+面  
 生命環境(生命工、地域食物科学)…<前>数+理→論  
 (環境科学)…<前>数+理2→論  
 (地球社会システム)…<前>外+(国 or 数)→論

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は241人(79)で2年連続大幅減少、志願者数は1,000人を下回った。後期も192人(90)の減少で2年連続減少。主体性評価の強化のため、個別試験で面接や小論文を追加したことによる負担増が影響。

### <前期日程>

○教育(86)は、(学校/障害児)を除く5コースで面接が追加になりすべてのコースでの実施となったことによる負担増と系統への低い人気から2年連続減少。ただし、募集人員(前年度募集人員対比指数77)も減少したので、志願倍率は2.5倍→2.8倍へアップ。コース別では、(学校/科学)(136)は前年度減少率60%以上の激減の反動で大幅増加、(学校/障害児)(110)は2年連続増加。これら以外の4コースはいずれも大幅減少。特に、(学校/言語)(30)は2年連続増加の反動で、70%減少の激減。

○生命環境(69)は、全学科で小論文が追加となり負担増となったこともあって、2年連続大幅減少。学科・コース別では、(地

## 2021 年度入試状況分析【国公立大】

- 域社会／観光政策科学)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、その他の5学科・コースはいずれも大幅減少。
- 工(80)**は、2年連続大幅減少。学科別では、(土木環境工)(124)、(先端材料理工)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。その他の5学科はいずれも減少し、特に、(電気電子工)(48)は半減以下の減少で2年連続大幅減少。
  - 医(看護)(101)**は、前年度大幅減少の反動はなく、前年度並に留まった。

### <後期日程>

- 教育(86)**は、(教育／科学)を除くコースで共通テストの科目負担が軽減されたが、系統への低い人気から2年連続減少。ただし、募集人員(前年度募集人員対比指数75)も減少したので、志願倍率は10.3倍→11.7倍へアップ。コース別では、(学校／障害児)(138)は2年連続大幅増加、(学校／芸術身体)(100)は前年度並、その他の4コースは大幅減少。特に、(学校／幼小発達)(54)は前年度倍増近い大幅増加の反動で大幅減少、(学校／科学)(63)、(学校／言語)(67)は2年連続大幅減少。
- 生命環境(80)**は、2年連続大幅減少。学科別では、(地域社会システム)(151)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、その他の3学科は全て大幅減少。(地域食物科学)(48)は前年度増加の反動で半減以下、(生命工)(54)は前年度の反動による極端な増減が継続、(環境科学)(71)は2年連続大幅減少。
- 工(73)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数73)も減少したので、志願倍率は前年度と同様の6.8倍で競争は前年度並。学科別では、(先端材料理工)(163)は2年連続50%以上の大幅増加。一方で、(機械工)(33)は激減で2年連続大幅減少と対照的。(電気電子工)(62)、(コンピュータ理工)(65)、(土木環境工)(67)は、いずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医(医)(95)**は、個別試験の配点比率アップで、共通テストでの逃切りを考える層が敬遠したこともあって、やや減少で2年連続減少。志願者数は1,100人を下回り、後期のみの募集となった2011年度以降では最小となった。2段階選抜が実施され、合格率は85.1%、合格者最低点は661点(73.4%)だった。
- 医(看護)(155)**は、前年度大幅減少の反動で50%を超える大幅増加。